

## 平成 28 年度定時評議員会議事録

1. 日 時：平成 28 年 6 月 18 日（土） 11：00～14：30
2. 場 所：岸記念体育会館 1 階 101～103 会議室
3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

北海道セーリング連盟：濱田賢、岩手県ヨット連盟：長塚奉司、秋田県セーリング連盟：佐藤利秋、外洋津軽海峡：荒山雅仁、茨城県セーリング連盟：中村孝一、埼玉県セーリング連盟：谷正安、千葉県セーリング連盟：伊藤亮一、東京都ヨット連盟：落合光博、神奈川県セーリング連盟：平野豊、外洋東京湾：松浦孝志、外洋三崎：二松工、外洋三浦：庄野栄一、外洋湘南：新井五一、東京ヨットクラブ：平生進一、横浜クルージングクラブ：竹内千晴、新潟県セーリング連盟：細井房明、愛知県ヨット連盟：岡田彰、外洋東海：川合紀行、福井県セーリング連盟：鈴木規之、京都府セーリング連盟：坂文彦、兵庫県セーリング連盟：川上宏、和歌山県セーリング連盟：山口慶一、外洋内海：山岡閃、NPO 岡山県セーリング連盟：岩崎裕児、（公財）広島県ヨット連盟：丸川義則、（社）山口県セーリング連盟：小泉周三、外洋西内海：山田孝治、香川県ヨット連盟：九富潤一郎、佐賀県ヨット連盟：松山和興、長崎県セーリング連盟：古賀誠次、全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚、（社）日本ジュニアヨットクラブ連盟：中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一、日本 470 協会：三船和馬、日本レーザークラス協会：木村治愛

**以上、出席 35 名**

### その他出席者（順不同・敬称略）：

会長：河野博文、副会長：中川千鶴子、専務理事：鈴木修、常務理事：斎藤渉、坂谷定生、理事：中澤信夫、川北達也、天辻康裕、相澤孝司、末木創造、平井昭光、森信和、高間博之、井川史朗、岡村勝美、監事：斉藤威、児玉萬平、上野保、顧問：小田切満寿雄、戸田邦司、前田彰一、参与：小山泰彦、大谷たかを、桑原啓三、委員会委員長：安藤淳総務委員長、永井真美環境委員長、増田開ルール委員長、戸張房子国際委員長、オブザーバー：菊池邦仁理事候補、大西治夫理事候補、中村和哉理事候補、黒川重男理事候補、宇都光伸理事候補、富田三和子理事候補、杉原雄二評議員候補、中里英一広報委員会、小菅寧子アスリート委員会、広田喜世人 ODC 計測委員会、大庭秀夫準備委員会、加藤重雄レーザークラス協会

**以上、その他出席 40 名**

#### 4. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 49 名中、出席 35 名で、定款第 19 条に基づき定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

定款 18 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は外尾竜一評議員に決定し、平成 28 年度定時評議員会開催の宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、坂 文彦、二松 工の両評議員が任命され、承認された。

(河野会長挨拶)

2016 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが近づいてきた。また、2020 年オリンピックに向けたワールドカップ等の誘致、アメリカズカップ福岡開催、白石康次郎氏のヴァンデ出場など一大イベントが予定されているので協力いただきたい。平成 27 年度決算報告、役員選任、定款変更等の重要な案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

#### 5. 議案

##### 1) 平成 27 年度事業報告及び決算報告 (案)

鈴木専務理事から資料に基づき、平成 27 年度事業報告案について説明があった。

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに向けて代表選手が決まるなどオリンピックの準備を進めるとともに、2020 東京オリンピック・パラリンピックを見据えたセーリング活動の広がり、向上をすすめた。

- ① 2016 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに向けた取り組みについては、2016 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックを目指す大会等への選手を派遣し、7 種目の国枠を獲得し、11 人の代表選手を選出した。また、リオデジャネイロオリンピック・テストイベント、ISAF 世界選手権、アジア大会、ISAF ユースワールド等に選手を派遣し、リオデジャネイロオリンピックに向けての選手強化を図った。
- ② 2020 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、「日の丸セーラーズ」のナショナルチーム愛称とロゴを作成するとともに、オリンピックセミナーを 2 回開催するなど、2020 に向けての機運の醸成を進めた。また、ワールドセーリングの専門家を招いてのレース・マネジメント・クリニック開催、海上運営スタッフの育成計画の策定など、実際のオリンピックでの海上運営のスムーズな実施に向けての活動を開始した。
- ③ 国民体育大会については、第 70 回国民体育大会 (和歌山国体) においてセーリン

グ競技を開催実施した（参加 568 名、337 艇）。また、岩手国体リハーサル大会として、第 61 回全日本実業団ヨット選手権大会、第 16 回全日本セーリングスピリッツ級選手権大会、全日本セーリング選手権大会を開催実施した。

第 56 回インターハイは種目を従来の FJ 級（ソロ・デュエット）から 420 級と FJ 級の 2 艇種に変更して開催され、平成 28 年からは和歌山県で定点開催されることになった。

- ④ 国際貢献については、スポーツ・フォー・トゥモロー事業として、フィリピンの選手・コーチを招き、クリニックの実施や実際の大会でのレース経験を深めてもらい、アジアのセーリング界の向上に貢献した。また、スポーツ庁管轄の IF 事務局スタッフ派遣支援事業に前年度に引き続き 1 名を派遣して、セーリング界の国際人脈が広がるとともに、世界のトップレベルのレース運営や指導育成の状況を把握することができた。
- ⑤ 大型艇レースの活性化への取り組みは、ジャパンカップ、パールレース、ミドルボート選手権を実施し、大型艇レース・外洋レースの向上を図った。外洋常任委員会のもとに外洋加盟団体長会議、外洋合同委員会を開催するとともに、ORC レーティングシステムを JSAF で一括して管理を行うようにするなど、外洋レースを支える仕組みをより強固にした。
- ⑥ セーリングを広めるための広報、普及活動の活発化は、前年にリニューアルした JSAF ホームページを活用し、積極的に情報発信するとともに、会報誌 J-SAILING をイヤーブック的に発行、広報活動を活発に進めた。加山雄三さんに応援団長にご就任いただき、国民の皆さんにセーリングに対する認識を深め、セーリングを応援していただく活動を始めた。
- ⑦ 委員会活動の活発化は、チャイルドルームの積極的な設置、環境啓蒙のためのブックレット作成、レース・ルール・計測等の講習会の回数増、内容リニューアルなどが進み、各委員会活動が活発に行われた。安全危機管理 WG が活動報告を取りまとめ、セーリングでの安全強化、アクシデントの未然防止や事故対応について提言がなされた。

との発言があった。

斎藤常務理事から資料に基づき、平成 27 年度決算報告案について説明があった。

法人全体としては、収入合計 409,870 千円で予算比 4,521 千円増加した。メンバー会費収入・賛助会費収入は予算を下回ったが、特定目的の寄付金収入などが増加した。支出合計は 392,910 千円（予算比▲13,007 千円）を計上したが、オリ強委員会において予算比▲29,121 千円だった他は概ね 2 次補正予算で想定した通りであった。その結果、当期収支差額は 16,960 千円の黒字となったが、今回の決算においては、以下の特殊事情があり、実質的には収支均衡の状態です予算（▲568 千円）に近い状態であった。

- ① オリ強委員会の収支差額 25,642 千円は、本来オリ強積立に繰り入れるべき金額だが、期末点では JOC と JSC からの補助金の未収金が多く、相応する預金残高がなかったため、会計基準によりそのまま黒字計上した。
- ② 制式艇プロジェクトにおける収入予算として寄付金 16,000 千円を計上したが、そのうち 8,000 千円は寄付金収入を計上し、残りの 8,000 千円は H28 年 5 月末入金予定のため、H28 年度の収入に計上することになり、予算比 8,000 千円の減収となっている。5 月入金予定の 8,000 千円は H28 年度の収入のプラス要因となった。

以上を反映させて計算すると、決算の収支差額 16,960 千円、オリ強の積立不足▲25,642 千円、制艇寄付金収入予定 8,000 千円で差引額▲682 千円（予算▲568 千円）となった。次期繰越収支差額は、前期繰越収支差額 48,650 千円に 16,960 千円が加算され 65,610 千円となった。

事業別（委員会別）収支では、

- ① 管理費・その他収入は、世界選手権等の競技会開催における協賛金収入などが増加、予算比 2,625 千円増の 81,422 千円となった。支出は、役務費（メンバー管理）や消費税の納付額が想定を上回り、予算比 4,695 千円増の 61,125 千円となった。
- ② 一般事業の各委員会は、一部の委員会において予算を若干上回る収入およびそれに見合う支出増があったが、総じて予算通りの結果となった。
- ③ 東京オリンピック準備委員会は、協賛金収入が予算比 2,264 千円増で収入合計 19,403 千円、支出は海外派遣費等の増加などで 15,135 千円となり、収支差額 4,268 千円となり、この金額は東京五輪準備積立に繰り入れた。
- ④ オリンピック強化委員会は、収入は予算比▲7,131 千円の 217,770 千円、支出は同▲29,121 千円の 192,128 千円、委員会当期収支差額は 25,642 千円となった。この黒字については、本来オリンピック特別積立に積み立てるべきものだが、期末時点で相応する預金が無く会計基準によりそのまま収支差額全額を黒字として計上した。なお、オリンピック特別積立の前年度残高 2,848 千円はそのまま資産に計上した。当年度大幅に黒字となった主な原因は、JOC からの選手強化交付金が 32,955 千円（予算 16,200 千円）で前年の 10,500 千円から大幅に増加したことによる。収支差額の黒字部分はリオ五輪本番にかかる諸費用に充当する。
- ⑤ 制式艇種プロジェクトは、平成 27 年度はインターハイ用の 420 艇を設置する事業を実施し、30 隻を購入し和歌山に配置した。これにより 4 年間にわたる制式艇事業はすべて終了した。資金的には設置事業の寄付金 8,000 千円が H28 年 5 月入金予定、配布事業の県連への売却代金の未収入金 4,150 千円を残している状態である。各県連からの支払は、当初配布時点で定めた支払期限が 2017 年 3 月まで設定されているが、これまでのところ予定通りに入金されている。

この結果、総合計の当期収支差額は 16,960 千円の黒字となった。

貸借対照表における資産は、特別積立の積み増し、オリ強関係補助金の未収入計上、制式艇の固定資産計上などより、最終的に 28,652 千円増加の 161,693 千円となった。負債は、オリ強関係などの未払金が増加した一方、制式艇前受金の消滅（配布収入に振替）やリース債務の消滅などにより、最終的に 13,736 千円減少の 36,441 千円となった。正味財産は、収支差額の黒字などを反映し前年比 42,389 千円増加の 119,093 千円となった。内訳として、指定正味財産 18,530 千円、一般正味財産 100,562 千円である。

当年度決算の収支差額は、公益会計 8,890 千円、収益会計 947 千円、法人会計 7,122 千円の黒字、前期繰越収支差額加算した次期繰越収支差額は、公益会計▲11,391 千円、収益会計 1,128 千円、法人会計 75,873 千円となった。公益会計は収支相償が基本で、この赤字については特に問題ない、との発言があった。

児玉監事から、平成 27 年度決算報告の監査報告があった。決算報告は法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実認められない。計算書類及びその付属明細書並びに財団目録は、法人の財産及び損益の状況を適正に示しているものと認める、との発言があった。

平成 27 年度事業報告及び決算報告（案）は、棄権 0、反対 0、満場一致で承認された。

## 2) 定款の変更

鈴木専務理事から資料に基づき、定款改訂について説明があった。

定款第 5 章役員第 21 条（役員）第一項のうち、「(1)理事 23 名以上 27 名以内」を「(1)理事 23 名以上 30 名以内」に改訂する。

改訂趣旨は、

- ① 昨年来より、JOC から JSAF に対して、アスリート委員会の設置ならびに同委員会の責任者の JSAF 理事への就任が要請されており、理事会においてアスリート委員会設置が決議された。また、アスリート委員会からの推薦候補者を理事推薦候補者とすることを決議した。
- ② 同じく昨年来より、World Sailing（国際セーリング連盟）の障がい者セーリング国際組織との統合を受けて、JSAF においても障がい者セーリング組織の代表者を定め、同者が理事会へ参画することにより、障がい者セーリング関係者の意向が理事会へ反映できるようになることを要請されている。「障がい者セーリングを統括する委員会（仮称：障がい者セーリング推進委員会）の設置」を理事会に付議し、委員会からの推薦候補者を JSAF 理事推薦候補者とするにより、JSAF 内における障がい者セーリング代表者として理事会へ参画することを決議した。

③ かねてより社会的にも要請されている女性理事数の拡大のため、全国加盟団体代表者会議からの理事推薦候補者枠を1名追加するとともに、これを女性理事推薦候補者枠とすることを理事会にて決議した。

上記の一連の改訂に伴い、アスリート委員会からの理事推薦候補者、障がい者セーリング推進委員会からの理事推薦候補者、全国加盟団体代表者会議からの女性理事推薦候補者の計3名を増員させるため、定款に定める理事定数上限を現行の27名から30名へ変更することを審議いただくものである、との発言があった。

定款変更は、棄権0、反対0、賛成は満場一致、評議員2/3以上の賛成と認められて承認された。

### 3) 平成28・29年度役員選任について

鈴木専務理事から資料に基づき、平成28・29年度役員選任について説明があった。

2016年6月理事・監事任期満了に伴う、平成28・29年度理事・監事候補者の評議員会へ推薦する理事推薦候補者は、定款22条第1項に基づき、会長推薦候補1名（敬称略）は河野博文氏、全国加盟団体代表者会議による理事候補者8名（敬称略）は、鈴木修、宮野幹弘、川北達也、天辻康裕、坂谷定生、平松隆、斎藤渉、中澤信夫、水域推薦による理事候補者13名（敬称略）は、相澤孝司、末木創造、森信和、大西治夫、中村和哉、井川史朗、黒川重男、岡村勝美、菊池邦仁、平井昭光、大島茂樹、馬場益弘、宇都光伸、会長による推薦理事候補者5名（敬称略）は、植松眞、中川千鶴子、桑原啓三、関一人、富田三和子である。なお、提案した理事候補者は、履歴書・推薦書・所信を含む立候補届を提出し、役員候補管理委員会にて審査を受けて、理事会承認された候補者を基礎としている、との発言があった。

平賀威役員推薦候補者管理委員長から、平成27年12月5日理事会決定を受けて、役員推薦候補者管理委員会で理事推薦候補の選出管理をした。まず、全国加盟団体代表者会議による理事推薦候補者（いわゆる「選挙理事」）については、平成28年1月25日開催の全国加盟団体代表者会議に説明して、手続きを開始した。

平成28年2月26日に立候補を締め切り、定款22条の要件、その他理事会内規に基づく要件を確認したところ、全員要件に合致していた。

会長推薦候補者1名、理事推薦候補者8名は、それぞれ定数と同数であったため、選挙は行わず、いずれも全国加盟団体代表者会議による理事推薦候補者として推薦した。

また、各水域に依頼して選出された水域理事推薦候補13人について、定款22条の要件、その他要件を確認したところ、全員合致したので、水域理事推薦候補として推薦した。

また、会長推薦理事候補5人について、定款22条の要件、その他要件を確認したとこ

ろ、全員合致したので、会長推薦理事推薦候補として推薦した、との報告があった。

決議は、定款 19 条に従って、平成 28・29 年度役員候補者ひとり一人について審議した。

全国加盟団体代表者による会長推薦候補者 1 名は、棄権・反対 0、満場一致で承認された。全国加盟団体代表者による理事推薦候補者 8 名は、それぞれ棄権・反対 0、満場一致で承認された。水域理事候補者 13 名は、それぞれ棄権・反対 0、満場一致で承認された。会長推薦理事候補者 5 名は、それぞれ棄権・反対 0、満場一致で承認された。

#### 4) 評議員会における評議員選定委員会委員の選定について

外尾議長から資料に基づき、評議員会における評議員選定委員会委員の選定について説明があった。

評議員選定委員会の委員のうち、評議員たる委員は「定款」第 12 条 2 項及び「評議員の選定委員会運営規程」第 2 条に基づき、評議員会の決議をもって選任することとなっている。評議員からは、杉山嘉尚氏を評議員選定委員会の委員として提案する、との発言があった。

満場一致で承認された。

## 6. 報告事項

### 1) 「希望郷いわて国体」ならびに「笑顔つなぐえひめ国体リハーサル大会」ご挨拶

希望郷いわて国体・宮古市実行委員会事務局の伊藤重行様から、基本情報資料に基づき、「2016 希望郷いわて国体」開催について挨拶があった。平成 28 年 10 月 2～5 日、平成 23 年東日本大震災から 3 年後の平成 26 年 5 月に再稼働したリアスハーバー宮古においてセーリング競技大会が開催する。津波対策における避難誘導は最善の準備で取り組んでいるので、連盟関係者各位のご協力をお願いしたい、との発言があった。

笑顔つなぐえひめ国体リハーサル大会については、愛媛県セーリング連盟の黒川重男様から、基本情報資料に基づき、「笑顔つなぐえひめ国体リハーサル大会」について挨拶があった。平成 28 年 9 月 17～19 日の 3 連休に、新居浜マリーナにおいて開催する。海上は風が弱く、潮の流れもあるところだが、多くの選手に参加していただくように準備取り組んでいるので、連盟関係者各位のご協力をお願いしたい、との発言があった。

### 2) 東日本大震災募金口座終了及び熊本地震災害義援募金について

鈴木専務理事から資料に基づき、東日本大震災募金口座終了および熊本地震災害義援

募金への協力について報告があった。

連盟加盟団体及び全国のセーラーから支援いただいた東日本大震災支援総額は28,699,562円となった。本日、平成27年度決算終了における支援金残816,599円を東北セーリング連盟にお渡しする。

また、日本体育協会がスポーツ団体等に対して、熊本地震災害義援金の募集を行う決定したことを受けて、JSAFも賛同し、広くヨット界の皆さまに募金を呼びかけている。本会場に募金箱を用意しているので、ご協力をお願いしたいとの発言があった。

河野会長から、東北セーリング連盟の相澤様に支援金の贈呈があった。

### 3) 評議員からの質問及び報告

兵庫県セーリング連盟の川上評議員から、資料に基づき、主催者保険について質問があった。レース（行事）主催者保険は、セーリングスポーツを行うものにとって有意義な保険制度と理解しているが、保険の対象・対象となる時期、保障内容等の詳細を資料で周知いただきたい。例えば、大学生がインカレのために行っている練習期間での事故は、保険の対象となるのか等、保険の対象となる事故、対象とならない事故の範囲についてご説明いただきたい。レース（行事）主催者保険の内容が十分に理解できれば、さらに保険が有効に利用されることになる、との発言があった。

安藤総務委員長から、連盟及び連盟加盟・特別加盟団体が主催するレース（行事）において、参加者及び観客等の第三者が運営・指導上の瑕疵によって負傷・死亡、もしくは第三者の財物を損壊した場合に、法律上の損害賠償責任に対して損害賠償金を補償する主催者保険があり、連盟は包括的にこの保険に加入している。

連盟および連盟加盟団体（県連盟・外洋団体含む）、特別加盟団体が、主催・共同主催の行事（レース・パーティ・合宿等）、連盟登録指導者が連盟加盟・特別加盟団体と共同主催する講習会（練習含む）に起因する事故の内、参加者および観客などの第三者が、行事運営上や指導上の瑕疵によって負傷あるいは死亡した場合、又は第三者の財物を損壊した場合に法律上の損害賠償責任に対して損害賠償金、訴訟対応費用、弁護士費用等を補償するもの（国内提訴のみ）（行事後援は対象外）。

補償される期間は、行事日程が1日間の場合は、関連業務（受付事務等）開始時から全ての行事が終了し、レース本部解散時まで。日程が2日間以上の場合は、第1日目の業務開始から最終日のレース本部解散時までとする。

主催者保険加入に当たっての留意事項としては、JSAF加盟団体ではない一時的な組織である「実行委員会」等は、JSAF加盟団体と当該実行委員会・下部団体との共同主催とすること。

なお、共同主催は単なる「名義貸し」であってはならず、共同主催とした場合には、

損害賠償責任を負うことになるので、適正な対応が必要であることに留意すること、との回答があった。

愛知県ヨット連盟の岡田評議員から資料に基づき、国民体育大会セーリング競技の得点について質問があった。国民体育大会セーリング競技の種目別得点はダブルハンド4種目（成男470級、成女SS級、少男・少女420級）とシングルハンド6種目（成男・成女国体ウィンドサーフィン級、成男・成女国体ウィンドサーフィン級・成男レーザー級・成女・少男・少女レーザーラジアル級）の2グループに分かれており、ダブルハンド種目はシングルハンド種目の3倍の得点となっている。

この国民体育大会での得点格差により、各県でのシングルハンド種目の軽視、シングルハンド選手のモチベーション低下、ひいては国民体育大会への魅力低下を招いている。

具体的な根拠のない格差の是正を通じて各県のシングルハンド種目の活性化を図ることは、セーリング全体の活性化に繋がると考えられることから、国体委員会ならびに関連委員会で協議していただきたい、との発言があった。

末木国体委員長から、日体協の国体実施要項には、正式競技種目に全競技の得点算出方法が掲載されている。得点方法の変更は、日体協へ審議が必要になることから、現状では得点変更は困難である。指導者側も得点で指導することなどないようお願いしたい。少しずつ解消すべき努力はする、との回答があった。

日本470協会の三船評議員から、470ジュニア選手権を江の島で開催するとの報告があった。また、①JSAFのメディア対応として、もう少し広く一般にセーリングをPRする方法をメディア対策として考えられないか、②日本のコーチングの在り方として、メダルととる具体的な方法論やビジョンが必要である。例えば、ア杯はデジタル解析ソフトで選手を育成している。JSAFとして選手育成プロジェクトを立ち上げていただきたい、との発言があった。

日本ジュニアヨットクラブ連盟の中根評議員から、JJYUでは、国際交流を宮古で開催、少年少女のために浜名湖ジャンボリーを開催、普及活動としてミキハウスカップを開催している。また、優秀選手には海外研修などを行っている、との報告があった。

#### 4) 委員会報告

##### ・オリンピック強化委員会報告

斎藤オリンピック強化委員長から資料に基づき、リオ五輪セーリング選手団の選手・役員決定について報告があった。セーリング競技開催期間は、8月8～19日、日

標は2種目でメダル獲得、2種目で入賞とした。東京オリンピックに繋がる成果をあげられるように努めるとの発言があった。

代表選手（7種目11名）は、RS:X級男子：富澤慎（トヨタ自動車東日本）、470級男子：土居一斗・今村公彦組（アビームコンサルティング・JR九州）、470級女子吉田愛・吉岡美帆組（ベネッセホールディングス）、RS:X級女子：伊勢田愛（福井県体育協会）、レーザーラジアル級女子：土居愛実（慶応義塾大）、49er級男子：牧野幸雄・高橋賢次組（トヨタ自動車東日本）、49erFX級女子：宮川恵子・高野芹菜組（和歌山SC・関西大学）、役員は、団長：斎藤渉、チームリーダー：斉藤愛子、コーチ：中村健次、アーサー・ブレッド、ルスラナ・タラン、宮野幹弘、石川裕也、飯島洋一、支援スタッフ：武田哲子（管理栄養士）、アンドレ岩井（通訳・現地サポート）である。

なお、鈴木國央コーチは、平成27年度実施の海外遠征の未成年選手の行動に対して、帯同コーチとして不適切な指導があったので、嚴重注意を与えるとともに、リオデジャネイロオリンピックの派遣メンバーから外す。また、本年5月末にJOC専任コーチを辞任したとの発言があった。

#### ・オリンピック準備委員会報告

桑原準備委員会副委員長から、東京オリンピック・パラリンピック準備委員会報告があった。

- ① ワールドカップ日本開催について、全てオリンピックベニュー（競技会場）である江の島開催を要求する World Sailing 一部幹部を説得し、2017年蒲郡、2018～2020江の島のセットを条件に内諾を得た。5月にIOCならびに World Sailing 幹部の両会場視察があった。World Sailing は、①観客を集客できること、②海外からの参加選手が魅力ある場所であることの2つの貢献を示唆している。
- ② 現在、日の丸セーラーズスポンサーは4社獲得している。ワールドカップ日本開催決定で、さらに資金集めが必要である。
- ③ メディア対応は、セーリングに親しむ、セーリング競技を知ってもらう、迫力を知ってもらうをスローガンに準備委員会でも考慮している。

との発言があった。

#### ・国体委員会報告

末木委員長から資料に基づき、国体委員会報告があった。いわて国体の予備エントリーは、7月1日締め切り期限までをお願いしたい。いわて国体から監督は日体協公認スポーツ指導者有資格者のみで、特例措置の参加を認めないので注意していただきたい。また、競技団体が認定した世界選手権大会に出場する選手やトップアスリート参加資格特例措置対象者は、都道府県予選会を免除することができる。ドーピング検査で未成年者は同意を得ることとの発言があった。

#### ・レース委員会報告

川上委員長から資料に基づき、レース委員会報告があった。

- ① レース・オフィサー・セミナ、レース・マネジメント・クリニックについて開催希望は各水域レース委員に連絡していただきたい。
- ② ナショナル・レース・オフィサー（NRO）の更新要件として、最新のレース・マネジメントの情報を得るため「過去4年間に1回以上、レース・マネジメント・クリニックを受講していること」となっているので受講していただきたい。
- ③ RRS 改訂に伴う更新講習会を2016年12月以降開催する予定である。との発言があった。

#### ・ルール委員会報告

増田ルール委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。新ルールブックは11月末に完成予定である。ルール改正に向けた依頼事項として、ルールブック一括購入事前予約について、本年度中に貴団体が一括購入を予定する冊数を8月末までに連絡いただきたい。また、携帯性・検索性など利便性の高い電子版ルールブックを2018年1月販売開始予定である。電子版の販売価格は1,000円とする（製本版は2,800円）、との発言があった。

#### ・環境委員会報告

永井環境委員長から資料に基づき、環境委員会報告があった。

平成28年度環境キャンペーン補助金については、本年7月頃にスポンサー支援額が確定予定のため暫定案としている。支援金確定後にJSAFホームページに掲載する。

環境委員会では「残したいのはきれいな海」を合言葉に、ブックレットとペットボトルホルダーを作成した。現在、世界の海ではゴミの問題が深刻である。皆が意識すればこの大きな問題も解決することができるはずである。ブックレットは、レース艇長会議やイベント等で環境啓蒙に使用していただきたい。ペットボトルホルダーはペットボトルを海に流さないようにサイドステイ等に括り付けて使用していただきたい。危険であるので首にはかけないように注意していただきたい、との発言があった。

#### ・ジュニアユースアカデミー委員会報告

斎藤常務理事から中村ジュニアユースアカデミー委員長から提出された資料に基づき、平成27年度ジュニアユースセーリング・シーマンシップアカデミー事業報告及び平成28年度事業案内について報告があった。全国のジュニアクラブや高校、県連に所属するジュニア～ユース選手とその指導者・関係者を対象として、シーマンシップの啓発を目的とするコーチ派遣事業で、本年度も年間15回事業開催する予定である、と

の発言があった。

#### ・リオデジャネイロ・オリンピック・セーリング競技日本代表選手団壮行会

中川副会長から資料に基づき、第 31 回オリンピック競技大会（リオデジャネイロ）セーリング競技日本代表選手団壮行会について案内があった。2016 年 7 月 1 日（金）、帝国ホテル本館 2 階でオリンピック競技大会（リオデジャネイロ）セーリング競技日本代表選手団壮行会を開宴する。名誉総裁・高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、日本代表選手団の健闘を祈念、激励するための壮行会であるので、参加していただきたい、との発言があった。

#### ・国際委員会報告

戸張国際委員長から、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けての種目／艇種の見直しについて報告があった。本年 5 月 World Sailing 会議で、IOC からの示唆でカイトボード種目の導入、全体的に種目／艇種の見直しを発表した。日本としては、IOC の基本的な考えを尊重しつつ、まずは、JSAF として選手として不利にならないようにする、との発言があった。

河野会長から、World Sailing はカイト導入でセーリングの存続に繋がると考えている。JSAF としては、2020 年には種目変更をしないことと、2024 年の変更は考えることを主張した意見書を作成し、カウンシルに提出している。アジア、アフリカ諸国からは賛成の意を表していただいているが、470 の存続については今後も主張していく、との発言があった。

#### ・普及指導委員会報告

川北普及指導委員長から、日本財団「海と日本プロジェクト」報告があった。日本財団から 3,000 万円の助成金を得て、6 月 26 日～10 月 2 日までの間、全国 14 か所で、海の日普及イベントを開催することが決定している。現在、横断幕、ポスター、小冊子等を参加 8,000 人に提供できるように準備している。この事業を通じて、レガシーを残せると考えている。なお、来年度も、企画書を提出する予定、との発言があった。

#### ・その他報告

大村事務局長から、韓国セーリング連盟のレースについて、日韓の領有権でもめている竹島を回るのので、このようなレースについて受け入れられない旨、回答するとの発言があった。

以上、平成 28 年度定時評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、

議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 28 年 6 月 18 日

会 長 河 野 博 文

議 長 外 尾 竜 一

議事録署名人 坂 文 彦

議事録署名人 二 松 工